

2024 年度

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092400102		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム 野の花	ユニット名	
所在地	福岡県筑後市大字前津1 4 1 7-1		
自己評価作成日	2024年8月7日	評価結果市町村受理日	2024年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年8月20日	評価確定日	2024年9月30日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者様に四季折々の季節に応じた行事を職員と一緒に楽しんで頂きながら、田畑に囲まれた穏やかな環境で日々の生活を共にゆっくりと過ごして頂きたいと考えています。またご家族様にも安心して大切なご家族が入居して頂けますように誠実にそして日々、研鑽を重ねながらケアを行っています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム“野の花”は、管理者・介護支援専門員を中心に職員が結束し、理念にある『1日1日「今」を大切に暮らす』に繋がっている。職員のアイデアは素晴らしく、運動会では赤白帽子、夏は浴衣、お正月は着物を着る機会もあり、四季折々の季節を感じることができ、玄関先でお茶会などを楽しまれ、花壇（プランター）に野菜を植えて収穫している。自立支援の視点も強化し、「できること」「できそうなこと」を丁寧に把握し、ご本人と家族の要望を伺いながら、日々の暮らしに活かしている。レクリエーションで使用するパズルやゲーム等も、ご利用者と一緒に手作りしているものもあり、ご利用者と相談しながら月替わりの曲を決め、ハンドベルの演奏を楽しまれている。運営者である社長は日々の食事も大切にされており、本部の厨房で手作りした美味しい料理が日々ホームに届けられ、月1回はお寿司やウナギ等のお弁当が届いている。だご汁作りが得意な方もおられ、ホームと一緒に「だご」をこねて下さっている。6月はラッキョウ作り、夏はかき氷大会、11月は干し柿作りなど、季節行事を楽しまれ、とうもろこし茶や黒豆茶などを準備し、快便に繋がるように努めている。今後も市内の感染状況に配慮しながら、日々の楽しみや外出等を検討していきたいと考えている。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの目につく場所に掲示しており、理念を基に行動している。	理念の中に「四季折々の季節や五感を感じる生活を支援します」とあり、干し柿やラッキョウ作りを含め、季節行事を大切にされている。「自分らしく自由な、そして、1日1日「今」を大切にする暮らしを支援します」という理念もあり、ご本人の生活歴やお好きなことを把握し、日々の生活の中で楽しみや役割を担って頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道路愛護への参加を継続しつつ、新たに「子供110番の家」に参加している	2022年から道路愛護(年2回)が再開し、職員が草刈り機を持って参加し、地域の方から「どげん？」と声をかけて下さっている。子ども連れの地域の方が市の広報を毎月持って来てくださり、嬉しく思っている。2024年度は地域の羽犬塚中学校に「子供110番の家」への参加を申し出て実現することができた。今後も時期を見ながら地域交流を増やしていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にご出席頂いた際や、道路愛護に参加した時に活動内容を話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、意見交換、質疑応答を行っている。	2023年から対面開催している。ホームの状況や取り組み、外部評価結果も報告し、毎月の家族へのお手紙や野の花新聞について好評をいただいた。会議終了後は、レクリエーション等をしている生活状況をガラス越しにご覧いただいている。欠席された地域の方には自宅訪問し、ご意見等をいただいている。	今後も家族と地域の方が参加しやすい会議となるよう、開催時間等の検討を続けていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際や電話連絡などを通じて報告・相談を継続して行っている。包括支援センター主催の勉強会に参加している。	代表や専務、主任（介護支援専門員）が市を訪問して相談しており、適宜アドバイスをいただいている。運営推進会議に市役所、地域包括の方々に参加していただき、社長、管理者などと意見交換し、ホームの取り組みを理解いただけるように努めている。地域包括主催の勉強会やGH協議会の部会に参加し、情報交換を続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の実施や職員会議で、身体拘束・虐待防止や権利擁護についての勉強会を実施している。	身体拘束は一切行わず、ご利用者個別の身体・精神状態を考慮し、職員間で情報共有している。身体拘束等適正化委員会、虐待防止委員会も開催し、会議内容を詳細に残し、日々のケアの振り返りに活かしている。外部者との電話内容を録音することもでき、職員の電話対応等の振り返りに活かしている。職員の対応も優しく、穏やかに過ごされている方が多い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の立ち上げ、職員会議の際、勉強会を実施し知識の向上や防止に努めている。業務の見直しを適宜行い、職員の負担軽減に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の外部勉強会に参加しその情報を共有するために施設での勉強会に取り入れったり、事例などを参考に実施を行っている。	内部研修で成年後見制度等の研修を行い、地域包括主催の研修内容を職員と共有している。制度のパンフレットを準備し、入居時に家族に説明している。現在は制度を利用する方はおられないが、以前は後見人（司法書士や親族）との話し合いをしていた。入居後も制度の必要性を検討し、必要時は窓口を紹介している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、変更時は、必ず御家族に説明し、また質問、意見等あれば、その都度説明して了承いただいている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置やご家族来訪時に意見や要望を伺い朝の申し送りや職員会議等で話し合いをして反映させている。	毎月「野の花新聞」と「ホーム便り」、担当職員のお手紙等を郵送し、暮らしぶりを報告している。コロナ禍、面会中止の期間もあったが、窓越し面会などは継続しており、現在は併設事業所のリビングで面会していただいている。電話や手紙で家族と連絡を取り合い、不安の軽減に努めるとともに、家族の思いを伺うように努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務内容やケアの方法など毎日の申し送りや会議にて意見交換、情報共有を行っている。	社長と管理者は職員の意見やアイデアを大切にされており、1日1日「今」を大切にす暮らしの支援に繋げている。年間計画に応じて職員が行事担当を担い、天候を見ながら花見ドライブ等を企画している。ランチでゴーヤやミニトマトを作り、成長を楽しまれている。職員同士の助け合いもあり、良きチーム作りに努めている。職員の家庭事情を考慮した勤務表を作成している。	今後も運営者側が主になり、勤務シフトの実状、個々の職員の願いや苦勞等の把握に努めていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休希望を聞いたり資格取得や子育て支援、各スタッフの状況や相談に応じて調整している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	そのスタッフの身体や家庭の状況に応じ、勤務体制を整えている。新しく入職したスタッフには、マンツーマンで指導を行っている。	介護経験を問わず、施設の応募条件と応募者の希望が合っている方や、仕事に対する取り組みが真摯である方などを採用している。就職後も日々のレクリエーション、脳トレや体操、ゲーム等、様々なアイデアを出して実行している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の職員会議や日常生活での気づきがあれば、各入居者様に応じたケア方法を意見を出し話し合いにて決定、実施している。	身体拘束廃止委員会などで、ご利用者の個別ケアの在り方や声かけの仕方等を再確認している。社長と管理者等からも高齢者の尊厳（言葉遣い、羞恥心、自尊心等）、「今」を大切にす暮らしの大切さを伝えており、職員も日々の関わりの中で心がけている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム部会や講習会、実践者・管理者研修への参加。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、地域包括支援センター勉強会への参加及び内容の共有。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族、前施設の職員さんに尋ねている。ホームで出来ること、他機関との協力が必要なことをよく説明する。見学のご案内を行い、実際の雰囲気を見ていただいている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に初期の支援は連絡を密にとり、以前の生活のことを伺いながら環境作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスが必要になるか要望を含めて介護支援専門員が中心となって対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ごとに、趣味嗜好に応じた個別レクや、身体状況に合わせて下肢筋力維持の体操や手指の運動を取り入れている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を毎月手紙で行っている。面会についてはコロナ感染予防にて予約制をとり徐々に緩和している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会について、一部制限を設けているが予約制にて緩和している。	ご利用者の生活歴の把握に努め、筑後市内や自宅近くをドライブし、昔話を下している。子どもの頃からのご友人から「年齢的にも、会えるうちに会いたい」という要望があることを家族より伺い、面会を行うことができた方や、感染対策に考慮しながら、年末年始に自宅に外出できた方もおられる。コロナ以前は家族とお墓参りに行かれた方もおられた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心地よい時間を過ごして頂くためにスタッフが間に入ってゲームや体操などを一緒にやり交流の場を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で看取りをさせていただいた入居者様の葬儀への参列。初盆や一周忌の際にお参りに伺っている。転居された後も年賀状などで交流を図り関係が断ち切らないよう働きかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく、ご本人のペースで過ごしていただいている。本人の意向があれば、それを職員に伝え対応している。	日々の生活の中で「食べたい物や飲みたい物」「部屋で過ごしたい」等の意向や日々のレクリエーションの希望等を伺っている。「家族に会いたい」等の願いもあり、感染対策を踏まえた面会方法を検討している。難聴の方には「お手洗いが空いたのでどうぞ」等の手書きカードを見ていただいたり、ご利用者同士の会話の際も必要時は遠目で見守り、必要時は介入して意思疎通の支援をしている。生活歴の中で「だご汁作り」が得意で、「皆に食べさせてあげたい」という願いの方もおられ、毎月「だご汁の日」を作り、介護計画にも盛り込み、職員と一緒に作られている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族との会話の中で色々な情報を収集するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議や朝の申し送り、ノートなどを活用し伝達し話し合いや対応に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何か気づきがあればその都度報告し、会議で話し合いを行い計画を立てている。	前回の外部評価以降、アセスメントを詳細に記載し、ご本人の残存機能（できる事や役割）の記録を増やしてこられた。アセスメントと計画の整合性が取れるように努め、介護計画の表現をよりわかりやすく記載している。日課表も詳細にケア内容と注意点を記載し、日々のモニタリングで実施状況を記録している。介護支援専門員が入居前に施設や病院を訪問し、生活状況などの把握に努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕での申し送りでの伝達。大事な点は、申し送りノートへ記入し情報の共有を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会等、ご本人やご家族の要望に応じて現在の状況を勘案して対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人、ご家族の要望に応じて地域資源の情報共有を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望する医療機関を利用していただいている。また、ご家族付き添いで受診される場合は状態の報告書を作成するなどしている。	往診医との連携ができており、状態報告及び処方依頼表に日々の健康状態などの気づきを記入し、漏れなく主治医に伝えるようにしている。職員の観察力も高く、ホームの看護師に日々相談でき、昼間の早期対応に繋げている。受診時は家族が介助し、ホームに戻られた時に診察結果を伺っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、看護師が健康チェックを行い、状態や気づいたことなど情報共有している。また、健康チェックでの特変などの内容を主治医へ報告している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話での情報交換をおこない、職員が面会に伺い医療機関との協力体制をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望があれば、看取りを行い支援できる体制を作っている。	入居時にホームの「終末期ケアの方針」を説明し、「主治医や関係機関との連携、家族の協力を頂きながらの終末期ケアである」事の同意を頂いている。医療機関や看護師と連携し、職員間で情報共有し、家族も一緒に過ごせるように努めている。24時間の往診と看護師へのオンコール体制、訪問看護の利用等も可能であり、今後も全職員で終末期ケアなどの勉強を続けていく予定である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体限時に緊急時の対応の勉強会を開催。AEDの場所、使用方法通達している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施と地域の方々へ相談して災害時の情報や協力体制をお願いしている。	前回の外部評価以降、夜勤専従職員も避難訓練への参加を行っており、夜間想定訓練を続けている。避難の流れを職員に配布し、事前に読んで頂き、訓練に繋げている。災害に備えて懐中電灯、ランタン、発電機、毛布、貯水パック、保存食60食、水2L×18本、お茶2L×12本、カセットコンロ等を準備し、井戸水も利用できる。系列施設の応援体制もあり、近くの川の増水状況を確認し、避難時期等を見極めている。BCP（事業継続計画）を作成し、社長から説明が行われた。	①今後は運営推進会議の日に避難訓練等を行い、行政や地域の方にも訓練に参加していただけるように検討していく予定である。 ②避難誘導時のベッドからの移乗訓練等を強化して実践に繋げるとともに、地震や風水害など、多岐にわたる内容での訓練を実施していきたいと考えている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴、更衣介助時は、必ずドアを閉めて対応している。また日頃から言葉遣いには職員間で注意し合ったり、勉強会にて接遇について再確認を行っている。	ご利用者は人生の大先輩であり、日々の生活の中で丁寧な声かけを心がけ、居室に入る際も声かけやノックをしている。職員同士で気兼ねなく、思った事を注意していただけるように努めており、記録物の保管場所も留意している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの工夫を行い可能な限りご本人の意向を表現できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別レク時パズルなどされる際は、複数お持ちし選択していただいている。歌番組や時代劇など入居者様が好まれるテレビを録画し余暇時間に放映している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事時のお化粧やネイルの支援や定期的な散髪が出来るように支援を行っている。また更衣の際は好きな洋服を選んでいただくようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやお米研ぎ等役割を持ち参加していただいている。だご汁を作りたいという要望を受け、毎月だご汁の日を設け一緒に作成している。	2019年秋から法人本部で全ての事業所の副食と行事食を作り、1日2回（昼食・夕食と翌日の朝食）ホームに届けている。献立は社長が考えており、朝食の汁物はホームで手作りしている。毎月季節に応じた行事を行い、旬の食材や果物を提供している。正月にはホームで雑煮を作り、豆腐入りの紅白団子が入っており、行事食ではリクエストを受け付け、バイキング形式で提供を行い、ご自身で選んでいただいた。母の日は立花寿司、6月はラッキョウ作り、夏はかき氷大会、11月は干し柿作りなど、季節を楽しまれている。ご利用者もお米とぎや盛り付け、タッパーやコップ洗い、片付け等をして下さる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態に応じて補助食品の提供を行っている。また口腔内や嚥下の状態に応じて煮炊きやキザミでの提供を実施している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後きちんと口腔ケアを行い、必要に応じて歯間ブラシなどを使用し介助を行っている。また、義歯が合わなくなったりした時はご家族様に報告し確認の上、訪問歯科に依頼している		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様ごとに時間の調整や対応を行っている。	昼間は全員トイレで排泄している。布の下着（必要時に紙パンツ）を着用し、自立している方もおられる。ご利用者の排泄パターンを把握し、必要に応じて事前誘導し、失禁が減った方もおられる。昼と夜でパッドを使い分けることで、失禁や装着時の不快感等が軽減され、消費量を抑え、金銭的な負担も減少している。排泄の間隔やパターンなどを統計的に把握し、日々の行動背景を分析しながら認知症の専門医に紹介していくなど、根拠に基づいたケアに繋げるように努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食時に乳酸菌飲料、15時にとうもろこしのひげ茶を提供している。腹式呼吸を活用した排便体操を個別にプログラムしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴準備に関して一覧表を作成し、ご自身で用意をしていただいている。介助が必要な方についても職員と一緒に準備を行い、洋服の選択などをしていただいている。	入浴好きな方が多く、湯温等、ご利用者の要望に応じている。肌への負担軽減のため、泡タイプのボディソープや入浴後は保湿剤を使用し、皮膚乾燥の予防をしている。入浴時は職員と会話し、柚子湯や菖蒲湯を楽しまれている。体調に応じて併設事業所の機械浴を使用する事もできる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアーマットの貸し出し。介護用品の情報提供。寝具の調整。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診後は情報の共有を行い、薬事表で確認している。また、薬剤師とも情報共有、相談を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルや脳トレプリントなど個人の趣味や好みにあわせて提供している。動物や子どもが出演する番組を好まれる方が多く録画をストックしている。食事作りや盛り付けなど個別に役割を持ち実行していただいている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内屋外でのお茶会や日光浴・花火大会の実施 個別ドライブの実施	気候に応じて日光浴や敷地内の散歩を楽しまれ、敷地内でお茶会やアイスを食べる時もある。筑後市内のドライブにお連れし、八女市立花町のコスモス見学、柳川市の藤棚の見学など、四季折々の花見を楽しまれている。コロナ前はおしゃれをして、買物や外食（広川町の和華）に行かれており、今後も楽しい外出支援を検討していく予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額でなければご本人・ご家族の了解があれば所持していただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいとの要望があれば、職員がご家族に電話し話していただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活導線上に危険物を置かないようにしている。季節に合わせたものの掲示、写真の掲示や花を飾っている。	室温度の調節を行い、掃除は1日3回しており、リビングの窓からの日差し調整も続けている。その時の気分でリビングや居室で過ごされ、職員手作りの脳トレやレクリエーション、ゲームの品物をリビングに置き、ご自分で選べるようにしている。社長が持参して下さる絵本や、職員が美容室でもらった雑誌を読まれる方、音楽をかけて体操や歩行訓練をされる方、小さな器具でリハビリをされる方もおられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人での活動がお好きな方はパズルやプリントなど個別での活動、複数人でのカルタやゲームがお好きな方は集まって活動、歌がお好きな方はカラオケなど好みに応じて思い思いに過ごしていただいている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さな観葉植物やテレビ等なじみものをお持ちいただき、ご本人が使いやすく過ごしやすいように配置している。	居室のドアに名札を掛けたり、ご自分が作られた折り紙などをドアに貼っている。居室の照明のスイッチは低く、届きやすくしており、部屋中に手すりを設置している。タンス、洋服、テレビ、家族の写真や植物（花）、愛用の化粧水等を持ち込まれ、編み物の本を読まれる方もおられる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の案内板の設置。 箸やコップを新調する際は、なるべく同じものを準備し、なじみのものを作れるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				